

主題にあった事柄を進んで書くための作文指導

那覇市立石嶺小学校教諭 田中 志郎

I テーマ設定理由

文化審議会国語分科会報告案に、「『書く』ことは、考えを整理し、考えることそのものの鍛錬にもなるが、最近の子どもたちは一般に『書く』ことを嫌う傾向にある」とある。これは何をどう書いたらよいか十分に指導されていないことに加えて、忍耐強く一つのことに取り組もうとする力が不足していることが原因と指摘されている。

では、私の学級の子どもたちはどうだろうか。児童はどう表現すれば自分の思いが伝わるのか考え、悪戦苦闘しながら真剣に原稿用紙に向かっている。作文に関する実態調査では、学級の半数以上の児童から「題材が決まっても文章をどう書いたらよいかわからない」という声が多く聞かれ、方法や技術が分からないことが原因で作文嫌いになっている児童が6割以上に上った。さらに、半数以上の児童が自分の思いを効果的に書き表すために「方法や技術を知りたい」と考えていることが分かった。

そのような児童を前に、私はどのような支援を行ってきたか振り返ったとき、「工場を見学したこと」や「自然教室に行ったこと」などを作文を書く「動機」とし、できた作文を「工場の方に読んで頂く」とか「自然教室思い出報告会で保護者に聞いてもらう」ことを「目的」として作文を書かせるなど、動機や目的の過程での指導で終わり、その後どう書けばよいかという書き方の指導はほとんどなされていなかった。そのため、その時点の児童の持っている力で作文を書くだけの活動にとどまり、作文を書く力を高めるには至らなかった。

これまでの実践の反省を踏まえ、児童が作文を書く際に「題材をどう書いたらよいかかわからない」という状態をなくし、自分の思いを効果的に表現できるような指導の工夫について研究したい。その手だてとして、作文学習の手引きを作成し、活用したいと考えた。作文を書く速さは個人差が大きいので、書く過程が進むにつれ個々の課題も違ってくることが多い。その際、児童一人ひとりが、書く意欲を失わずに、自分のペースで学習していこうという気持ちを喚起させることや、どうしたらよいか分からないことや確認したいことがある時に、それを調べたり振り返ったりすることができるような手引きとなるようにしたい。このように指導の工夫をすることで、自分の思いを「書くこと」で表現する楽しさやよさを味わい、主題にあった事柄を進んで作文が書けるようになるだろうと考え、本テーマを設定した。

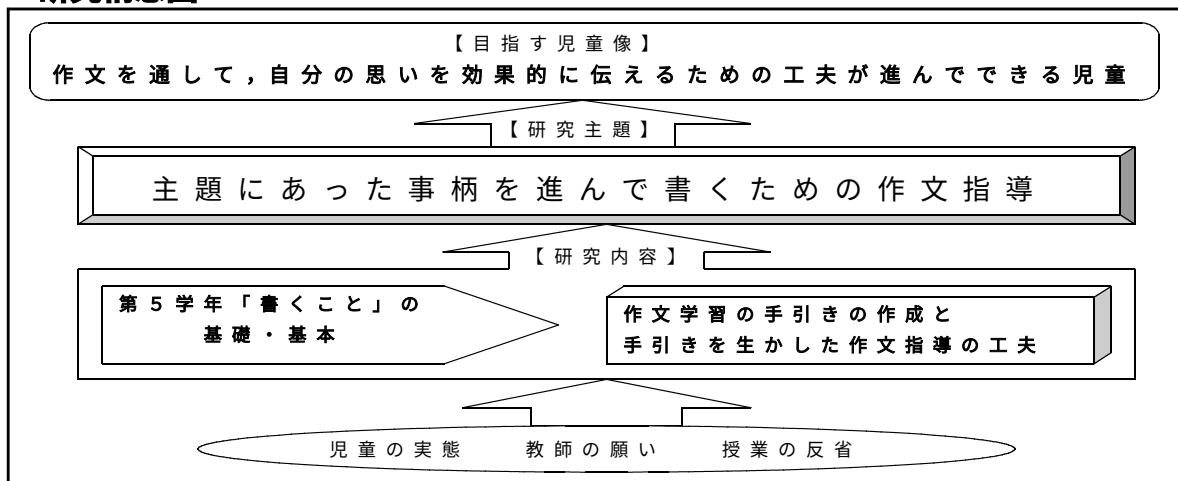
II 研究目標

主題にあった事柄を進んで書けるようにするための基礎・基本を踏まえ、作文学習の手引きを活用した指導方法について研究する。

III 研究方針

- 1 第5学年「書くこと」の目標を踏まえ、基礎・基本を明らかにする。
- 2 作文学習の手引きを活用した主題設定や構成の指導について工夫する。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 第5学年「書くこと」の目標と基礎・基本

第5学年として身につけさせたい基礎・基本の力を、小学校学習指導要領解説国語編の第5・6年「書くこと」の指導事項でみると、目標に「目的や意図に応じ、考えたことなどを筋道を立てて文章に書くこと」を育てたい能力としている。

さらに、田近試案の「作文領域の基本(生活作文系列)」(表1)によると、5年生では「全体を見通して、必要のある事柄を整理して書く」ことを基礎・基本としている。

5年生の作文指導を行うにあたって、「筋道を立て」ることや「必要のある事柄を整理する」ことを踏まえ、「主題がよく伝わる、分かりやすい文章を書く」ために「構成する力」

表1 書くこと・作文領域の基本(試案)
～生活作文系列(自己表現)～

学年	作文領域の基礎・基本
1年	事柄の順序をたどって書く。
2年	事柄の順序を整理して文章を書く。
3年	事柄ごとの区切りや中心を考えて書く。
4年	中心点を明確にしなが、段落と段落の続き方に注意して書く。
5年	全体を見通して、必要のある事柄を整理して書く。
6年	全体の構成を考えて、くわしく書いたり簡単に書いたりする。

(「子どもと創る国語科 基礎・基本の授業」国土社 田近洵一 2003)

を身につけることが重要であると捉える。そのため、主題設定から推敲、清書までの全表現過程において、構成したことを生かすための工夫ができる力を身につけさせることが、主題にあった事柄を書くために大切である。そこで、「構成する力」を身につけさせることに重点を置いた作文指導をする必要があると考える。

2 作文学習の手引きを活用した指導方法の工夫

学習の手引きは、学習のポイントやヒントを解説するものである。手引きを使うことにより、学習内容の理解を深めたり、分からないことや曖昧なことを確認できたりし、さらに、一人学びの手だてにもなる。指導事項を押さえ、児童の実態に即した手引きを作成することで、主体的に作文を書くことができるようになると考える。

- 1 はじめに
- 2 作文を書こう
- 3 主題について考えよう
- 4 組み立て表を使った構成について考えよう
- 5 組み立て表ヒント集
- 6 下書きをしよう
- 7 推敲しよう
- 8 清書しよう

図1 手引き見出し一覧

主題を分かりやすく伝えるためには、文章を書き始める前に、主題を明確にし、要旨に対する見通しをもたせた上で、それに応じた文章構成を考えさせることが大切である。そこで、主題を設定する過程では、書こうとする文章の主題を十分に自分のものとして考えさせ、価値ある主題をつかませるために、具体的な日常の場面を想起させる「題材例を提示した作文学習の手引き」を通して主題文を設定する指導を行うことが有効であると考え

主題設定の際の思考の順序は、まず、何のことについて書こうか考える「発想」をし、次に、そのことについてどんな事柄があったか「取材」した中から、「どんなことを中心に書くか」という「主題」を決めるという場合と、「主題」を先に決めて、主題にあった事柄を「取材」するという方法がある。「何を書いたらよいかわからない」という児童は、思考の出発点である「発想」について支援を必要とする。

そこで、本学級児童の実態に即した具体的な題材例を考え、図2のような4項目 11 例をヒントとして挙げた作文の手引きを作成する。11 例のヒントをもとに、学級全体で話し合いなどを通して、自分の考えを深めていく。そして、自分の考えのもとになる経験を十分に掘り下げ、生活を見つめさせる。そうした過程で絞られてきたものこそ、相手に対しても説得力があり、思いつきでなく、訴える価値のある主題になると考える。

主論文は「〇〇して、□□こと」という一文で端的に書かせるようにし、〇〇には、体験したこと、□□には、考えたことを入れるようにする。また、設定した時の気持ちや考えを作文を書き終えるまで維持することができるように、主題設定の理由も書いて残しておくことにより、主題にあった事柄を進んで書くことができるようになる。と考える。

主 題 について考えよう

『主 題 と は 』

『作文の中で言いたいこと』の中心となるもの

○ 体験したことや考えたことの中から主題を
考えてみましょう。

☆ ヒント

★ 家族との生活の中で経験した出来事について、
考えたこと。

- ・「親に怒られてくやしかったこと・分かったこと」
- ・「おばあちゃんやんの生年祝いで感じたこと」
- ・「病気や風邪のときに感じた親のありがたさ」
- ・「兄弟げんかをして思ったこと」

★ 自分と友達との学習や生活の中で起きたことと
ついて、考えが変わったり、疑問に思っていること。

- ・「いたずらをして考えたこと」
- ・「朝練習・朝の活動をして思ったこと」
- ・「先生に怒られたこと」

★ 自分自身に関することある出来事をきっかけに、考
え方や見方が変わったこと。

- ・「自分の言った一言で人を傷つけて考えたこと」
- ・「部活動や習い事を通して得たもの」

★ 社会的な活動を通して、気づいたり考えたりした
こと。

・「ボランティア活動に参加して」

主 題 文 を 書 い て み よ う ！

「○○して、□□こと」の形で書こう。

○○には
経験した
ことを書
こう

□□には
考えたこ
とを書こ
う

主 題 文

主 題 に 選 ん だ 理 由 を 書 き ま し ょ う 。

たくさん体験や考えの中からどうしてこ
の主題をえらんだかというと、

図2 主題設定のための手引き

(2) 作文学習の手引きを活用した構想指導の工夫

作文における「構想」は、取材から記述に至るまでの思考活動そのものである。構想をより焦点化し、明確にするための手だてとして「構成」の指導が必要になってくる。構成は、実際に書く前の「組み立てメモ」の作成などによってなされる。

自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考え、「自分が体験したことや考えたことのなかから、いちばん伝えたいことをくわしく書く力を身につける」という基礎的・基本的事項を押さえ、「くわしく書くことが明確になるような組み立て表」を用いた指導を行う。

①「構成」についての理解

小学校における作文指導の際、基本として押さえたい構成の代表的な展開例として、図3にあるように、「時間の流れの順で書く」型、「初め・中・終わり」の型、「起承転結」の型、「統括型と尾括型」などが挙げられる。低学年では、時間の移り変わりや出来事の展開に沿って、その順序どおりに書くことを基本として指導する。中学年以上になると、文章構成の効果をさらに高めるため、ときには事実や出来事の順序を置き換えて書くことも必要であることを学習し、そのために、必要によって記述の前に組み立て表を作成することもある。

構成を具体化していく際、構成表を活用することは有効である。しかし、構成表にもそれぞれの長所・短所があり、意図や目的に合わせて、どの構成表を使った方がよいのか取捨選択する必要がある。

これまでの構想指導の実践例を調べると、カード法、リンクマップ法、対角線式図式化法、観点提示法、構成提示法の5つのパターンが多く見られる。(図4)

カード法は、取材したことを並べ変えることで構成メモが出来るが、広がった発想をまとめて道筋を見つけるのが難しい。



図3「構成について考えよう」の手引き

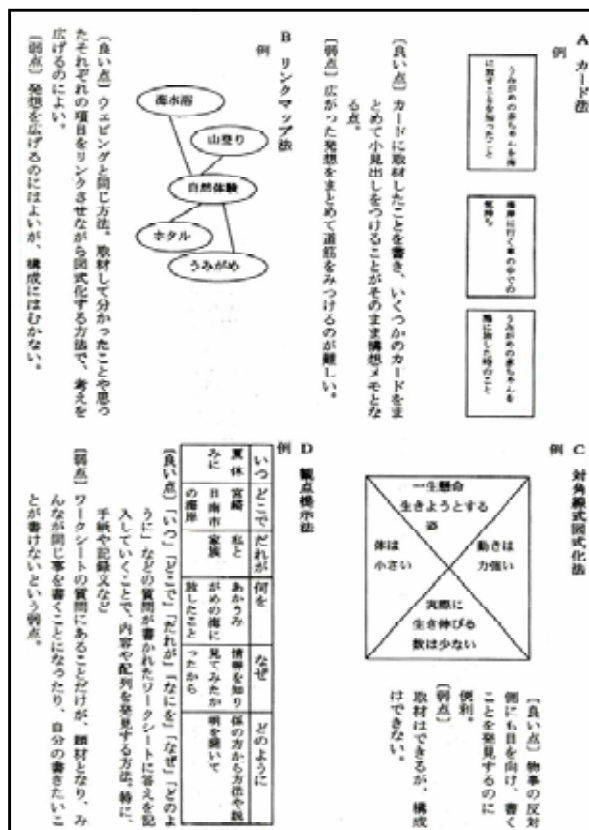


図4「組み立て表を使った構成」の手引き

リンクマップ法は、取材の際、考えを広げるのに適しているが、構成には向かない。対線図式化法は、物事の反対に目を向ける新たな発見をできるが、構成には向かない。観点提示法は、手紙や記録文などで、内容を明らかにするのに有効であるが、題材が限定され自由が少ない面もある。構成提示法は、初め・中・終わりなど、構成の仕方を提示し、書く順序を重視するときに便利であるが、書くべき内容の発見にはつながりにくい。

このような、特徴を捉えたとき、今回の作文学習においては、構成を重視し、構成を通して書くべき内容を集めていくような取材をするという力を身につけさせたいことから、構成提示法（図5）を活用した組み立て表を作成する。小学校における構成提示法の基本的な展開例として、「初め・中・終わり」、「起承転結」が挙げられる。その代表例として図5の一般的な組み立て表と今回扱う図6の組み立て表を比較し、その特徴を捉えることで

「くわしく書くところと簡単に書くところが明確な構成表をつくる」という目標を確認する。また、言語事項の目標である「文章にはいろいろな構成があることを理解すること」を通して単元目標の「自分が体験したことや考えたことのなかから、いちばん伝えたいことをくわしく書く力を身につける」指導へつなげる。

②組み立て表を生かした「構成」の指導

図6の組み立て表は、「初め・中・終わり」の基本的な構成を基盤に、さらに、「いちばん伝えたいことをくわしく書く」ことができるよう「くわしく書くこと」として柱立てするという二重構造になっているところが特徴である。

まず、上段の「一番伝えたいこと」の欄は、主題文を書く。次に、中段の「初め・中・終わり」の欄には、「時間の流れの順」に、主題にあった事柄を書くための大事な場面を書く。

「初め」は1～2項目、「中」に3～4項目、



図5 構成提示法の組み立て表

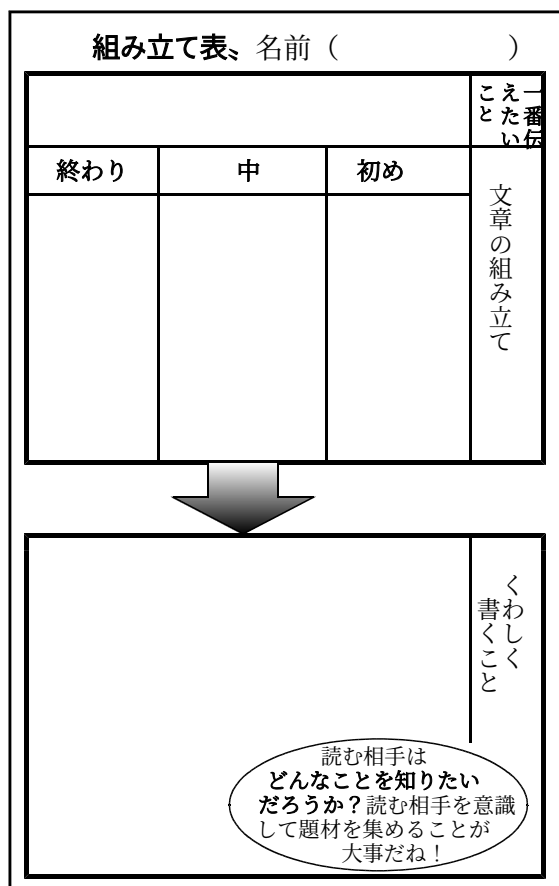


図6 組み立て表ワークシート

「終わり」に1～2項目程度に絞って場面を書き出す。その時、「終わり」の部分は、自分の考えたこととして、主題文に迫るまとめの文を書く。最後に、「中」に挙げた3～4項目の中から、くわしく書く場面を選んで枠で囲み、下段の「くわしく書くこと」の欄に矢印で下ろし、そのことについて、さらに、「時間の流れの順」に、様子がよく分かる場面を書いていく。このように組み立て表を作成することで、5年生の作文の基礎・基本としておさえる「全体を見通して、必要のある事柄を整理して書く」力を身につけることができ、さらに、「いちばん伝えたいことをくわしく書く力を身につけること」ができると考える。

また、主題を設定した後で取材を兼ねて組み立て表を作成することで、必要なことだけが取材でき、主題にあった事柄を書くことができると考える。さらに、組み立て表を作成することにより、簡単に書く場面とくわしく書く場面のバランスなど、文章全体の見通しをもちながら書いていくことができるという利点がある。

③「組み立て表作成の手引き」の作成と活用

児童は、「初め・中・終わり」の展開についての知識はあるが、「くわしく書くこと」をさらに構成することは初めてである。そこで、組み立て表作成のポイントやアドバイスになるような、図7の手引きを作成する。

具体的な内容には、次のようなこと盛り込んだ。中段の「初め・中・終わり」では、生活作文の基礎・基本である「事実を時系列に配列すること」。「初め」は、出来事のきっかけ、「中」には、様子や気持ち、「したこと・言ったこと・見たこと・聞いたこと」などの中から大事な場面を書く。「終わり」は、主題の中心になる出来事に対する自分の気持ちや考えたことを書き、主題を明確にすることをヒントとして挙げる。下段の「くわしく書くところ」は、ヒントの言葉をもとに、「くわしく書くこと」に選んだ項目のさらに具体的な場면을想起させるようにし、どんな場면을くわしく書けば主題に迫ることができるか考えることや、「読む相手のことを考えて題材を探すという相手意識をもつこと」ができるようにする。

組み立て表			名前 ()
ここに 主題を書こう！			一番伝え たいこと
終り	中	初め	文章の 組み立て
出来事に対する 今の自分の気持ち をいこう！ 考えたこと	その時の様子 〇 したこと 〇 言ったこと 〇 見たこと 〇 聞いたこと	〇 出来事が起きた 「きっかけ」や初めの様子	
出来事が起こった「時間の順」に書くことが 作文を書くときの基本だったね。			
☆ 見たこと ☆ 聞いたこと ☆ 聞いたこと (会話・音) ☆ したこと ☆ 言ったこと ☆ どうしてどうだったのか ☆ いろいろな様子や場面を 分けていって書いていこう ☆ 自分なりに考えたこと ☆ その時の気持ち			くわしく書くこと 次に挙げる例の中から、 くわしく書いたほうがよいもの はのびか考えよう。 読む相手は どんなことを知りたい だろうか？読む相手を意識 して題材を集めることが 大事だね！

図7 組み立て表の手引き

ヒントの言葉の選定については、普段の作文指導で、よく使う声かけの言葉を中心に、多くの児童の主題に当てはまるような言葉を考えて選ぶ。この手引きと教科書学習材の組み立て表例の両方を効果的に活用することで、組み立て表作成がスムーズに行え则认为る。

VI 授業実践

1 単元名 「自分の思いを効果的に伝えよう」

2 教材名 わかりやすく構成を考えて

3 単元目標

◎自分が体験したことや考えたことのなかから、いちばん伝えたいことをくわしく書く力を身につける。

【国語への関心・意欲・態度】

・作文を書くことに関心を持ち、進んでいちばん伝えたいことをくわしく書こうとする。

【書く能力】

・文章の構成や書く目的に応じて、効果的な材料を集める。《取材》

・簡単に書いたり詳しく書いたりするところが明確な構成表をつくる。《構成》

・主題や要旨をおさえ、構成表をもとに簡単に書くところ詳しく書くところを考えて書く。《記述》

・自分の書いた文章を読み返して、全体の構成を見直す。《推敲・評価》

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、生活の中で「体験したこと」や「考えたこと」を書くという「生活作文」系列の教材である。

本学級では、5月に、序論・本論・結論の型を用いた構成を意識して、自動車工場を見学して分かったことや感じたことを書く見学記録文を書いている。また、7月には、感動の中心を明確にして、必要な事柄を取捨選択して書くことに重きをおいて、自然教室に行って感じたことを書く行事作文を書いている。

これまでの学習を受け、本単元では、「体験や考えたことを、筋道を立てて文章に書く」ために、「構成を重視して」書けることを目標とし、特に、詳しく書くところと簡単に書くところの軽重をつけて構成するという方法を身につけさせるための教材となっている。

(2) 児童観

10月に行った作文に関する実態調査から以下のことが分かった。

本単元で重視する「構成」に関しての質問（「時間の順」「はじめ・中・終わり」など、これまで学習した文章構成に気をつけて作文を書いていますか。）に対しては、「とてもあてはまる。あてはまる。18人(48.6%)」「あまりあてはまらない。あてはまらない。19人(51.4%)」がほぼ半々となっている。

このような実態を踏まえ、本単元では、教科書教材を生かし、手引きやワークシートを手だてとして活用することによって、構成を意識して作文を書くことで主題を効果的に伝えることができる力を育てたい。

(3) 指導観

まず、教科書教材などで構成の重要性を捉えさせるとともに、主題についてしっかり考えさせ、書きたいという意欲と目的意識・相手意識を明確に持たせたい。次に、最も重視したいのが構成表である。本単元では、全部を事細かに書くのではなく、「簡単に書いたりくわしく書いたりする」ことも読み手に自分の気持ちを効果的に伝えることになる一つの方法であることを理解させ、その構成法を活用できるような力を育てたい。

5 本時の学習

(1) 目標

○自分が一番伝えたいことを効果的に伝えられるようにするための文章の構成を考える。

《構成》

(2) 本時における具体的な手だて

①組み立て表作成のポイントを理解するために、全体で話し合いを行う。

②組み立て表作成の題材の想起がしやすいように、作文学習の手引きを活用する。さらに、つまずきのある児童には、手引きなどを生かしながら個別指導を行う。

(3) 本時の展開 (4 / 8 時間)

	学習活動と主な発問	★教師の支援	評価
導入 (5分)	1 前時までの学習を振り返る。 前時までにわかったことや準備できたことを確認しましょう。	★ノートや手引きを参照させる。	
展開 (35分)	2 本時の課題を把握する 一番伝えたいことを効果的に伝えられるようにするための文章の構成を考えよう。		
	3 組み立て表の作成の仕方について考える。 ①浜田さんの組み立て表をもとに組み立て表にどんなことを書けばよいか考えましょう。 ②Aさんの主題をもとにみんな考えてみましょう。	★教科書の作文例をもとに考えさせる。 ★ある児童の主題をもとに実際に作成してみることで方法や視点が分かるようにする。 ★手引きを活用し個別指導を行う。	・組み立て表作成の視点を理解することができる。 (発言・様子・ノート)
	4 組み立て表を作成する。	★全体の傾向として、同じようなつまずきがあると判断した場合には、記述を中断して一斉指導の中で自己評価させる。 ★必要に応じて、友達と相談したりアドバイスしたりする。	・くわしく書くことのはっきりした組み立て表を作ることができる。 (・ワークシート・行動・様子)
終末 (5分)	5 本時のまとめをする。 今日分かったことや感想を発表しましょう。 6 次時の学習を確認する。 いよいよ下書きに入ります。		・構成表作成を通して作文を書く意欲を持つことができたか。 (発表・ノート)

(4) 評価

自分が一番伝えたいことを効果的に伝えられるようにするための文章の構成をすることができる。

VII 結果と考察

作文学習の手引きを活用した指導の工夫をすれば、主題にあった事柄を進んで書けるようになるであろう。

【手だて1】主題設定の過程における手引きの活用

主題設定のための手引きは、本学級児童の実態に即した 11 例を掲載し、その中から主題を設定するという指導の工夫を行った。

手引きをもとに、価値ある主題が設定できるように、自分で考えたり、全体で話し合ったりして、主題について自分の考えを深め、主題文と主題設定の理由を手引きの書き込み部分に記入した。Y・S・K・Mの4人の児童の主題文、主題設定の理由、そして主題を実際に作文にどう表現したかを、初め・中・終わりの「終わり」の場面を抜き出し、検証する。

【結果】

表2 主題文、主題設定の理由、主題を「終わり」の場面に表した実際の作文

児童 選んだ項目	主題文	主題設定の理由	「終わり」の場面の文章
Yさん 「友達とケンカして仲直りするまでに思ったこと」	友達とケンカして、あやまりたくてもあやまれない気持ちのこと。	ちょっとふざけてやっただけなのに、ケンカになってしまって、あやまりたくても、あやまれないくてとてもなやんだから。	私は、あやまることは大切だということがわかった。いつまでもだまっていたら、何の解決にもならないし、自分の気持ちを相手に伝えることができないから。だから、自分からあやまることのできた友達は本当に「すごいな」と思った。 これからは、相手のことを考えて話し、きずつけた時には、すなおに自分からあやまろうと思った。
Sさん 「親に怒られてくやしかったこと・分かったこと」	うそをついて、苦しかったこと。	「うそ」を言うと胸が押されるほど苦しくなる。いつまでも心の中に残ってしまって、超苦しくなるので、うそをつきたくないと思ったから。	僕は、心の中で思った。「うそというものは、自分をいためつける、心の病なのか。」とつぶやいた。うそに負けない心と力をもって、うそと戦って、勝つような「心になりたい。」
Kさん 「病気や風邪の時に感じた親のありがたさ」	風邪を引いて、体を大切にしていこうと思ったこと。	今年は、けがをしたり、風邪を引いたりしたことが多かったから。	これからは、体を大切にして、勉強もして、遊んで、健康な体を毎日過ごしていきたいと思った。そのために、家に帰ったら、手洗い、うがいをちゃんとして、毎日楽しんでいこうと思った。
Mさん 「朝練習・朝の活動をして思ったこと」	朝練習をして、みんなですることの楽しさを感じたこと。	朝練習をして、一位にはなれなかったけれど、みんなと力を合わせる、ことが一番ということが分かったから。	運動会が終わった後、家族と話し合おうと、「みんなで助けあえたんだから、順位は気にしないでいいと思うよ。」と、お母さんが言ってくれました。私も「みんなで助け合うことが、一番なのかもしれない。」と思いました。 「みんなで助け合うことを大切にしていこう。」これが、運動会が終わってからの、私の強い想いになりました。

【考察1】

Y, S, K, Mは、主題設定の手引きに掲載した 11 のヒント具体例の中の「友達とケンカして仲直りするまでに思ったこと」「親に怒られてくやしかったこと・分かったこと」「病気や風邪の時に感じた親のありがたさ」「朝練習・朝の活動をして思ったこと」から主題を設定した。文章が完成するまで、主題にあった事柄を書くという意識が弱まることなく、主題をしっかりと表現できたのは、手引きをもとに自分の経験を十分に掘り下げ、生活を見つめた上で主題文が設定できたためであると考えられる。

また、構成の指導の際、主題は「終わり」の場面に記述することを共通理解した。4名の「終わり」の場面の文章を見ると、主題にあった事柄がきちんと表現できている。

このようなことから、児童の日常に即した題材を想起させるような手引きを作成することで、

示している児童である。主題を決める過程までは、時間がかかって心配したが、構成に入ると、早い時間に組み立て表を完成させた。手引きと教科書例を繰り返し読み、教科書学習材の組み立て表例に似た文章全体の流れがよく分かる組み立て表を作成した。作文完成後の自己評価では、構成に関する項目の「文を書くときに役立つ組み立て表をつくることができた」「くわしく書くところがしっかり書けた」の項目がA評価であった。事後アンケートでは、「組み立て表を作ったので下書きが書きやすかった。手引きがあったので参考にして組み立て表を完成させることができた。今後も手引きがあった方がよい。」と回答した。また、今後手引きをよくして行ってほしいことの欄に、「お手本や見本のような、作文を書くときに参考になるものがたくさん見たい」と記入した。

【結果2】組み立て表の評価結果（評価計画に基づく）

児童の作成した組み立て表を評価計画の評価基準に基づき、3段階で評価した。

表3 組み立て表についての評価基準と評価結果

	評価基準	結果（％）
A	起こった出来事を時系列に構成し、作文全体の流れがよく分かるような重要な場面を抜き出すことができ、「初め」を1～2項目、「中」を3～4項目、「終わり」を1～2項目程度題材を書くことができた。その中でも中心となる事柄について、「くわしく書くこと」の場面を抜き出し、効果的に構成することができる。	34％ (13人)
B	起こった出来事を時系列に構成し、「初め」を1～2項目、「中」を3～4項目、「終わり」を1～2項目程度題材を書くことができた。さらに、その中でも中心となる事柄について、「くわしく書くこと」の場面を抜き出し、構成することができる。	61％ (23人)
C	起こった出来事について、時系列に並べることで、構成できることを気づかせる。	5％ (2人)

【結果3】構成に関する事後アンケートの結果

構成に関する手引きについて、学習後のアンケートで、「1、組み立て表を使った構成について考えよう」「2、組み立て表例（アドバイスカード）」について、「役に立った・どちらとも言えない・あまり役に立たなかった」の3段階で評価をさせた。（表4）

表4 構成に関する手引きを使った学習後のアンケート結果

	手引きのタイトル	役に立った	どちらとも言えない	あまり役に立たなかった
1	組み立て表を使った構成について考えよう	72％	25％	3％
2	組み立て表例 (アドバイスカード)	67％	25％	8％

表4の構成の手引きについてのアンケートでは、約7割の児童が「手引きは役に立った」と回答した。

また、「組み立て表を作成し、活用したことで作文が書きやすくなりましたか」という問いに対して、「はい」と答えた児童が36名中29名で、8割の児童が組み立て表を活用するよさを感じることができた。

【考察2】

組み立て表作成の様子を振り返ると、「これまでと同じように時間の順で作文を書けばいいんだ」と捉えて手早く作業を進めた児童と、場面の切り取り方に苦労してなかなか作業がはかどらない児童がいた。後者の原因の一つとして、図8のYさん同様、初めての組み立て表作成で、全体での説明を聞いたり話し合ったりする中で、作成の方法を理解したつもりでも、いざやってみると難しいということにあるようであった。その際、手引きを活用することは、具体

的な場면을想起させ、どんなことを書けばよいのか考えることに役立ったようである。さらに、教科書の組み立て表例などを参考に大事な場面はどこかを考えることで、組み立て表を作成することができた。学習の事後アンケートにおける「組み立て表作成のための手引き（アドバイスカード）」について、全体の約7割の児童が役に立ったと回答しており、児童の実態や学習のねらいに即した手引きを活用することは多くの児童にとって有効であると考ええる。さらに、組み立て表を作成して作文を書くことに関して、学級の約8割の児童が「組み立て表を作成したおかげで、これまでに比べて下書きがしやすかった」と回答しており、主題にあった事柄を書くために、組み立て表などを活用して「構成を行うこと」が重要であるということを児童が実感できた。

図9のSさんのように作文を苦手とする児童も、今回は、手引きがあったために、それを参考に具体的に作業を進めることができた。事後アンケートからも分かるように自分なりに満足のいく組み立て表を完成させ、いつもよりスムーズに、また、自分の思いを効果的に表現しながら文章を書くことができた。Sさんはまた、今後の作文指導に期待することに「お手本があると書きやすい」と回答しており、このことは、いつもは何をどう書いたらよいか分からない状態で、さらに、わからないことがあっても積極的に質問をしない児童にとって、手引きなどのお手本は、主体的に書き進めることができる有効な手段であると捉える。このことから、組み立て表の作成とその作成のための手引きを活用することは、主題の明確な作文を書くために有効であると考ええる。

主題設定や構成など各作文表現過程で、学習の理解を深め、一人学びの助けとなる作文学習の手引きを作成活用することは、主題に迫るための表現の工夫について効果的に指導でき、主題にあった事柄を進んで書くことにつながると考えられる。

VIII 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 作文を通して自分の思いを効果的に伝えることができるような力を育てるため、各表現過程における様々な指導方法を知り、それを生かすような作文学習の手引きを作成することができた。
- (2) 主題にあった事柄を進んで書くための作文学習の手引きを活用した授業作りができ、児童が自分の思いを効果的に伝えようと工夫する姿が見られるようになった。

2 課題

- (1) 手引きやワークシートのさらなる改良と効果的な活用方法の工夫。
- (2) 主題にあったことを書くためのさらなる効果的な作文指導の方法について研究する。

《主な参考文献と引用文献》

「小学校学習指導要領解説 国語編」	文部科学省	東洋館出版社	1999
「子どもが輝く国語科授業 書くこと編」	大越 和孝	東洋館出版社	2001
「子どもと創る国語科 基礎・基本の授業」	田近 洵一/ 中村 龍一	国土社	2003
「小学校 作文指導事典」	藤原 宏 / 八田 洋弥	教育出版	1993
「実践国語研究」	全国国語教育実践研究会	明治図書	2003